

平成20年度第3回東京都生活習慣病検診管理指導協議会（がん部会）

【開催日】 平成21年2月26日（木）

【出席】 出席8名

青木委員、上畑委員、岡野委員、近藤委員、角田委員、寺田委員代理、
徳田委員、山口委員

【欠席】 欠席3名

小野委員、斎藤委員、曾我委員

【事務局】 矢内健康推進課長、井上成人保健係長、平塚課務担当係長、
森課務担当係長、成人保健係3名

議題1 平成20年度がん検診精度管理評価事業の結果について

【委員】 検診受診者に40歳未満の人が受診するのは理解しがたい。

【事務局】 区市町村の担当者には、研修会を開催し、対象者について説明を行っている。

【委員】 精検結果の把握の方法で、把握できない場合に、改めて問い合わせ票を医療機関の担当医に出すなど、検討できないか。

【事務局】 区市町村によっては、現在、最後の結果が出るまで、電話等で結果を確認しているところも出てきており、他の区市町村へ紹介している。また、医療機関に直接問い合わせをするような体制に変えた方が良いという形で、助言を行っているのが現状である。よって、東京都の指針は、精検の結果が書ける調査票を、患者が医療機関に持って行き、医療機関で精検の結果が出来次第、医師から送り返してもらう設定で作っている。

【委員】 受診対照者台帳、若しくは精検結果把握のための帳票が区市町村にあって欲しい。

【事務局】 職域で受けているのか、或いは全く受ける機会がないのか、台帳整備を整える仕組みづくりのモデルを、来年度、行おうと考えている。

【委員】 受診率向上に与える要因は、対象者集団を個々に把握しているかということと、個々に対する受診勧奨ということに尽きる。

- 【委員】 要精検者をきちっと把握して受診勧奨するということが大切である。精検受診結果を把握していない数と、精検受診率の多寡はよく相関する。
- 【委員】 肺がん検診で、CT検診を大規模に行っている地区の要精検率が高い。そして、がん発見は0。壮大な無駄である。肺がん検診の場合は、精検は必ずCTである。CTの放射線被曝は結構なもので、壮大な数の放射線が浴びせられることになり、やはりがん検診の気をつけなければいけない1つの大きな落とし穴である。要精検率を上げ過ぎると大変な放射線被曝が発生するという問題について、やはり敏感でなければならない。
- 【委員】 乳がんと言うと、精検の受診率が低いという地区がある。かなり低いところは、ぜひ精検受診率の向上をプッシュして欲しい。
- 【委員】 胃がんを見せてもらい、対象年齢が低い地区があり驚いた。
- 【委員】 胃がん検診を、低すぎる年齢に多く実施しても、がんが見つかるはずがないので、その辺を考慮しなければならない。

議題2 平成20年度東京都のがん検診実態調査の結果について

- 【委員】 女性の30代、40代ぐらいまでしか職場のがん検診は受けていない。
- 【委員】 金融業の関係が充実しているという結果があるが、金融業自体は大きい所が多く、また、福利厚生の一環で、有能な人材確保をしており、その辺をかなり会社とグループ全体で強化している傾向がある感じがしている。通信業についても、放送局を中心に、この厳しい中でも予算的にも潤沢なので、そのあたりの表れではないか。
- 定期健診も含めて、福利厚生、がん検診など、例えば、総合健保や中小の事業所が、これまで社員のために行ってきた。よかったことが、金融危機のあおりを受けなければよいと思う。
- 【委員】 やはり有効性のある方法で実施すべきというところが、職域では、かなりずれる危険性があるような気がしている。
- 【事務局】 職域の精度管理については、都では、技術的指針を区市町村だけではなく、健保組合に配っている。あくまでも区市町村用として作っているが、同じように使っていただける内容である。

議題3 平成20年度及び21年度東京都のがん予防対策について

なし

報 告

(1) 東京都がん検診の精度管理のための技術的指針の策定について

なし

(2) がん検診事業評価指標の東京都がん検診支援サイトへの掲載について

【委員】 専門でない一般の方も見るので、その辺をぜひ考慮して欲しい。